

昭和二十年八月十三日 火曜

一、朝菅波三郎氏ト共ニ大臣ヲ官邸ニ訪問、特ニ大臣ハ
内大臣即ニ行キ不在ナリ、歸來ヲ待テ最高戦争指
導會議出席前小時ヲ自勤率側ニテ立話ス、三
笠宮殿下、木戸共ニ勤カス、三笠宮殿下ハ大臣ニ對シ
テモ相當強ク云ハレシ模様ナリ、サレト大臣ハユノ憂愁
ニ拘ラス、予ヲ見ルヤイツモノ微笑ヲ以テ迎ヘ、予ヲ摩キ
テ簡單ニ立話セラレタリ

二、吾等少壯俱ハ情勢ノ惡化ヲ痛感シ、地下防空壕ニ
參集、真劍ニツケテ、予ヲ計畫ス、竹下、榊崎、畑中
田島、稻葉、南、水原、中山、安、中山、平、島貫、浦國
武原等ニ、三課、軍務課ノ面々ナリ、竹下ヨリ大綱ヲ
示シ、平介ケシテ、細部計畫ヲ進メ、更ニ秘密ノ嚴守
ヲ要求ス

今ヤ吾人ハ御聖斷ト団体護持ノ關係ニ付深刻ナル問題ニ達着セリ計畫ニ於テハ要人ヲ保護シオヒテ擁護シ聖慮ノ變更ヲ待ツモノニテ此ノ間國政ハ戒嚴ニ依リテ運営センドス

三、此ノ日吉本重章大佐軍務課長ニ補シセラシ著任恰モ前課長永井少將モ本日歸京急ニ頭カ揃ヒタリ吉本大佐ハ詔書必謹山田成利大佐ハ態度明瞭ナラサリシモ課長著任スルヤ詔書必謹トナル

四、夕芥米紙「三」ヨクタイムス及「フ」ラトリビユーニシ「兩紙」ノ日本皇室ニ關スル論説放送アリ皇室ハ廢止セラルヘシトノ露骨ナルモノナリヲ以テ大ニ喜ヒ急遽印刷ノ上閣議席上ノ大臣ニ届ケタレトモ山田大佐持參シ迫水閣議中配布セサリシ由ナリ

五、三笠官殿下吉本課長ト山田大佐トヲ呼セ例ノ調子ニ

テ陸軍ヲ責メ持ニ陸軍大臣ノ態度ハ聖旨ニ及シ不適
當ナリト云ハレシ様ナリ

課長ハ陸軍ノ自肅等諒承セルモ陸軍ノ主張ハ眞ニ國
体ヲ思フ切々ノ至情ニ出ツル點御諒承願ヒ度旨申上
ケテ歸ル

六夜竹下ハ稻葉 煮尾大佐ト共ニ「クーデター」ニ關シ大臣
ニ説明セント企圖シアリシ所ニツク頃閣議ヨリ歸即セル
大臣ヨリ招致セラレ掛崎 畑中ト同行官印ヲ訪ヒ相次
テ來リシ煮尾 稻葉 井田ト共ニ假令送臣トナリテモ永遠
ノ國体護持ノ爲斷々明日午前(始メノ計畫ハ今夜
十二時ナリシモ大臣ノ歸即遲キ爲テ不可態トナル)之ヲ決
行セシコトヲ具申スル所アリ大臣ハ容易ニ同スル色ナカリシ
モ「西郷南洲ノ心境カヨク分ル」自分ノ命ハ君ニ差シテケル
等ノ言アリ時々瞑目之ヲ久シウセラル十時半頃散會ト

東京・丸山館

三時間熟考ノ上夜十二時登廳荒尾大佐ニ決心ヲ示シ
所要ノ指示ヲセラル度旨述ヘ三々五々歸ヘル

予ハ前後ニ残り大臣一人ノ時賛否ヲ尋ネニ人カ多キ故
アノ場テハ一言ヲ憚リタリト答ヘ暗ニ同意ナルヲ示サル尚

皆歸ヘル時今日頃ハ君等ニ午カ廻リ逮捕セラルルヤモ知
レサルヲ以テ用心シ給ヘトノ注意アリキ他ヨリ人争セル情

報ニ基クモノノ如シ
七 皆役所ニ歸ヘリ夫ヨリ更ニ計畫ヲ練ル予ハ特ニ左ヲ

提案ニ全員ノ一致賛同ヲ得タリ
明朝ノエトハ天下ノ大事ニシテ且國軍一致蹶起ヲ必

須トス苟モ友軍相擊平ニ陥ラサルコトニ就テハ特ニ戒

ムルノ要アリ依テ明朝大臣總長先ツ協議シ意見ノ

一致ヲ見タル上七時ヨリ東部軍管區司令官近衛

師團長ヲ招致シ其ノ意嚮ヲ正シ四者完全ナル意見

ノ一致ヲ見タル上立ツヘク若シ一人ニテモ不同意ナレハ
潔ク決行ヲ中止スルコト

決行ノ時刻八十時トスルコト等ナリ

近衛師團長ノ進退ニ就テハ昨日ヨリ問題トナリアリ軍
事課島貫中佐ハ彼レハ大命ニ非ル限リ假令大臣ノ命
ナリトモ絶對ニ立ツコトナシニ三日前訪問ニテソノ心境ヲ
知リアリト述ヘ若シ然ル場合ノ措置トシテ師團長ヲ大
臣室ニ招致シ聽カサレハ監禁セントスルモノ、大臣カ呼ン
テモ來ルコトナカルハシ然ル場合ハ師團ニ行キ師團長
ヲ斬リテ水谷參謀長ニヨリテ事ヲ行ハントスヘシトノコト
トナレ